第12回 日本ジオパーク全国大会

白山手取川大会報告書

2022.10 / 21(金) ▸ 23(日)

～白山手取川の地から地球と人の未来を考える～

地球と旅する

主催／第12回日本ジオパーク全国大会 白山手取川大会実行委員会
共催／特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク、日本ジオパーク委員会

目次

あいさつ 1
開催概要 2
大会プログラム 3
開催報告
　10 月 21 日（金）..... 4
　10 月 22 日（土）..... 6
　10 月 23 日（日）..... 14
分科会報告 16
市町村長等セッション報告 22
ユースセッション報告 23
口頭発表 24
ポスター発表 26
プレジオツアー 28
ポストジオツアー 29
アンケート集計（抜粋）..... 32
SDGs チャレンジ 34
大会宣言 35
各種広報 36
実行委員会名簿 38
参加者数 39

大会テーマ

地球と旅する

～白山手取川の地から地球と人の未来を考える～

- 「地質遺産」である地層や露頭などを地球の「旅」の軌跡として捉え、時空を超えて人が地球に寄り添い、学び、感じ、未来を考える。
- 白山手取川ジオパークのテーマが「水の旅 石の旅」であることから、「旅」をキーワードとして、新たな旅のスタイルについて考える。
- 地球環境、持続可能性などの課題に向き合える場とする。
- ジオパークのネットワークを活かした中で、「地球との旅」の議論を深め「持続可能な発展」の実現につなげる。

「地球」に寄り添い、持続可能な未来を考える！

第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会実行委員会
会長 **山田　憲昭**（石川県白山市長）

第１２回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会は、コロナ禍のなか、全国各地のジオパーク並びに市内外から大変多くの皆様にご参加いただき、関係各位のご協力のもと、盛会のうちに無事終了することができました。ご尽力いただきました全ての皆様に厚くお礼申し上げます。

３年ぶりの現地開催となりました今大会では、オンライン参加やYouTube配信、交流会の分散開催など、コロナの影響により様々な対応をいたしました。これまでとは異なる大会運営に戸惑われた方も多かったのではないかと推察いたします。それでも、大会を待ち望んでいた多くの皆様が実際に当地に足を運び、各プログラムに意欲的に取り組み､互いの交流を深める姿にあらためてジオパークは人と人とのコミュニケーションが大切であり、日本ジオパークネットワークの活動の重要性を認識いたしました。

大会テーマの「地球と旅する」につきましては、講演会やパネルディスカッション、分科会、口頭発表、ポスター発表などを通して、それぞれが思いを寄せる「地球」と今後どのように向き合い、また、どのようにかかわっていけば良いのかをユース世代も含め、議論を深めたところであります。まさに、時空を超えて人が地球に寄り添い、学び、感じ、未来を考える大変良い機会となったのではないかと感じております。

また、全国大会では初となる「ＳＤＧｓチャレンジ」にも取り組みました。大会参加者にマイバッグ、マイボトル、マイ箸の持参を呼びかけるとともに、大会記念品には、森林間伐材の白山杉を使用した箸を製作、販売し、その売り上げを森林保護活動に役立ててもらうなど、ＳＤＧｓの意識高揚にも努めたところです。これを機に皆様の地域におけるＳＤＧｓのさらなる推進に繋がれば幸いです。

結びになりますが、参加をいただきました日本ジオパークネットワーク並びに地元の住民の皆様、そして、大会運営にご支援、ご協力を賜りました関係の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、全国のジオパークの今後益々の発展をご祈念いたします。

開催概要

大会名称 第 12 回 日本ジオパーク全国大会 白山手取川大会

テーマ 地球と旅する　～白山手取川の地から地球と人の未来を考える～

会　期 令和 4 年 10 月 21 日（金）～ 23 日（日）※期間の前後にジオツアーを実施

会　場 白山市松任文化会館 ピーノ および JR 松任駅周辺施設

主　催 第 12 回 日本ジオパーク全国大会 白山手取川大会実行委員会

共　催 特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク、日本ジオパーク委員会

後　援 内閣府／総務省／外務省／文部科学省／日本ユネスコ国内委員会／林野庁／経済産業省／国土交通省／環境省／ ESD 活動支援センター／中部地方 ESD 活動支援センター／北國新聞社／北陸中日新聞／読売新聞北陸支社／朝日新聞金沢総局／株式会社あさがおテレビ／ MRO 北陸放送／石川テレビ／テレビ金沢／ HAB 北陸朝日放送／エフエム石川／ラジオかなざわ

協　賛 株式会社クスリのアオキ／北海道地図株式会社、株式会社ジオ・ラボ／アルスコンサルタンツ株式会社／白山市経済団体連絡協議会／株式会社トスマク・アイ／株式会社 Kuroco. ／株式会社金沢村田製作所／学校法人金城学園／ YAMAZAKI GROUP ／ EIZO 株式会社／一般社団法人美しい伊豆創造センター／一般社団法人立山黒部ジオパーク協会／糸魚川ジオパーク協議会／佐渡ジオパーク推進協議会／恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会／イオンモール白山、公益財団法人イオン環境財団／協和道路株式会社／株式会社ムラシマ事務所／株式会社国土開発センター／学校法人金沢工業大学／株式会社日本海コンサルタント／一般社団法人石川県地質調査業協会／南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会／苗場山麓ジオパーク振興協議会／株式会社 ICC サービスセンター／株式会社石川コンピュータ・センター／東三河ジオパーク構想推進準備会／国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット／一般社団法人白山市観光連盟／株式会社吉田酒造店／一般財団法人飛騨山脈ジオパーク推進協会／株式会社町八家具／北鉄白山バス株式会社／株式会社あさがおテレビ／株式会社ケィ・シィ・エス／株式会社日本旅行／北國観光株式会社／株式会社中部資源再開発／中部地下開発株式会社／北陸地盤工学研究会

事務局 第 12 回 日本ジオパーク全国大会 白山手取川大会実行委員会事務局
（白山手取川ジオパーク推進協議会）
〒924-8688　石川県白山市倉光二丁目1番地
TEL. 076-274-9564 FAX. 076-274-9546

大会プログラム

10月21日(金)

10:00~12:00	**JGC事前相談会** 日本ジオパーク事前相談会 ＜ピーノ３階研修室＞ ユネスコ世界ジオパーク国内推薦事前相談会 ＜ピーノ４階研修室＞
13:00~15:00	**JGN運営会議** ＜松任公民館体育室＞
15:30~17:30	**JGN全地域事務局長会議** ＜ピーノ４階研修室＞
15:30~18:00	**プレジオツアー　到着** ＜ピーノ横＞
19:00~20:30	**白山市・クスリのアオキ文化創生プロジェクト** ＜ピーノ大ホール＞ **竹内海南江スペシャルトークショー** 「地球と遊ぶ・私のジオパーク」 講師：**竹内　海南江** 氏 （テレビ番組 世界ふしぎ発見 ミステリーハンター）

10月22日(土)

★は第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会実行委員会及び一般財団法人自治総合センターが主催する事業です。

8:30~ 9:55	**開会セレモニー** 開会アトラクション ほか ＜ピーノ大ホール＞
10:10~10:55	**基調講演★** ＜ピーノ大ホール＞ 「恐竜化石から過去、現在と未来の地球を考える」 講師：**真鍋　真** 氏 （国立科学博物館副館長 標本資料センターコレクションディレクター）
11:10~12:30	**パネルディスカッション①★** ＜ピーノ大ホール＞ 「地球と旅する～白山手取川の地から地球と人の未来を考える～」 コーディネーター：**青木　賢人** 氏 （金沢大学） パネリスト：**真鍋　真** 氏 （国立科学博物館副館長 標本資料センターコレクションディレクター） **坐間　妙子** 氏 （気象予報士）、**谷口　京** 氏 （写真家） **宮原　育子** 氏 （宮城学院女子大学）、**ママードゥア・アイーダ** 氏 （金沢大学）
13:30~13:50	**JGN・公益財団法人イオン環境財団包括連携協定発表** ＜グランドホテル白山フローラ＞
10:00~ 23日9:20	**ユースセッション** ＜石川県立鶴来高等学校　ほか＞
13:30~17:30	**分科会** ＜ピーノ研修室　ほか＞
14:00~16:30	**市町村長等セッション** ＜グランドホテル白山グローリーホール＞
15:00~17:00	**パネルディスカッション②★** ＜プララホール＞ 「さいころ de ジオトーク！～身近なネタから白山手取川ジオパークを語ろう～」 コーディネーター：**新名　阿津子** 氏 （高知大学 日本ジオパーク委員会委員） パネリスト：**若岡　真紀** 氏 （伝統工芸ディレクター） **ぶんぶんボウル** （吉本興業 よしもと石川県住みます芸人） **森下　知晃** 氏 （金沢大学）、**原　章子** 氏 （恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク） **山口　隆** 氏 （白山手取川ジオパーク 公認観光ガイド）
18:30~20:30	**交流会** ＜グランドホテル白山、レッツホールつるぎ＞

その他

10:00~16:00	**いいとこ白山フェア** ゆきママ☆マーケット ＜JR松任駅前交差点～プララ前（歩行者天国）＞ 伝統工芸「匠」コーナー ＜ピーノロビー＞ 交流広場「ジオネット」 ＜ピーノ正面広場＞
10:00~17:00	**ポスター発表** 一般の部 ＜千代女の里俳句館＞ 小中高生の部 ＜市民工房うるわし＞

10月23日(日)

8:45~10:30	**口頭発表** 一般の部 ＜ピーノ各研修室＞ 小中高生の部 ＜プララホール・ライブシアター、ピーノ大ホール＞
8:30~12:00	**ポスター発表** 一般の部 （コアタイム／10:30~11:30） ＜千代女の里俳句館＞ 小中高生の部 （コアタイム／10:30~11:30） ＜市民工房うるわし＞
13:00~14:00	**閉会セレモニー** 大会宣言、次回開催地あいさつ ほか ＜ピーノ大ホール＞

その他

10:00~15:00	**いいとこ白山フェア** ＜JR松任駅前交差点～プララ前（歩行者天国）＞
15:00~翌日	**ポストジオツアー　出発** ＜ピーノ横＞

開催報告

10月21日(金)

JGC事前相談会

日本ジオパーク申請希望の5地域（三好、蔵王、上川中部、喜界島、飛騨山脈）から16名、ユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請希望の5地域（Mine秋吉台、霧島、南紀熊野、下北、鳥海山・飛島）から12名が参加し、JGN事務局の進行のもと、日本ジオパーク申請希望地域に対しては中田節也委員長、国内推薦申請希望地域に対しては大野希一委員が説明を行った。質疑応答の後、日本ジオパーク申請希望のうち4地域がポスター発表で概要や準備状況を説明し、日本ジオパーク委員会委員7名を中心とした質問に応えた。

JGN運営会議

各地域の運営会議委員等総勢100名が参加した。全体の共有事項として、日本ジオツーリズム協会からのお知らせ、JGNオンラインカフェなどについての報告がなされた。また、JGN中期計画案（中期計画策定委員会）について説明がなされ、活発に質疑応答や意見が交わされた。さらに、新規提案事業（オンラインカフェ提案事項）、15周年記念イベント、「地球時間の旅」ＰＲ巡回展、ジオパーク教育を受けた人の意識変化調査などについて提案がなされた。

JGN全地域事務局長会議

51地域から事務局長35名、代理出席16名、随行者4名、中期計画策定委員6名の参加があり、古川理事長、桂副理事長、米田顧問、中田JGC委員長も出席されるなか、事務局体制の変更、イオン環境財団包括連携協定締結、活動状況調査結果速報、日本ジオパーク認定・再認定審査の状況、第13回全国大会（関東ブロック）などについて報告があった。また、JGN中期計画（案）について、中期計画策定委員会委員9名から計画案の説明や策定に参加した感想などが述べられた後、質疑応答、議論が行われた。さらに、新規提案事業等について意見が交わされた。

白山市・クスリのアオキ文化創生プロジェクト 竹内海南江スペシャルトークショー

白山手取川大会のキックオフイベントとして10月21日（金）に開催。「世界ふしぎ発見！」のミステリーハンターとしておなじみの竹内海南江氏が『地球と遊ぶ・私のジオパーク』と題して、白山手取川ジオパークの魅力を織り交ぜながら、ロケで訪れた世界各国での体験談や番組の裏話など、来場者約1,000人を前にトークを繰り広げた。旅先で撮影した写真も数多く紹介され、ジオパークへの思いが溢れるトークショーとなった。

10月22日(土)

開会セレモニー

● オープニングアトラクション

かんこ踊〈石川県指定無形民俗文化財〉白峰かんこ踊り保存会

御酒〈白山市指定無形民俗文化財〉美川御酒保存会

● 主催者・共催者あいさつ

実行委員会会長
白山手取川ジオパーク
推進協議会会長
白山市長
山田　憲昭

日本ジオパークネットワーク理事長
島原半島ジオパーク協議会会長
島原市長
古川　隆三郎

日本ジオパーク委員会委員長
東京大学名誉教授
防災科学技術研究所火山研究推進
センター長
中田　節也

● 歓迎あいさつ

石川県知事
実行委員会名誉会長
馳　浩 氏

● 来賓あいさつ

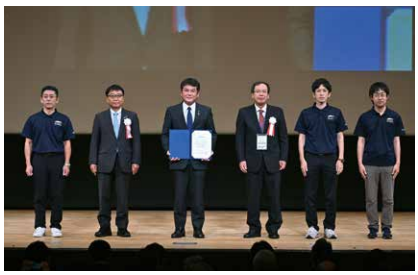
衆議院議員
ジオパークによる地域活性化
推進議員連盟
佐々木　紀 氏

参議院議員
ジオパークによる地域活性化
推進議員連盟
宮本　周司 氏

● 日本ジオパークネットワーク認定証授与

十勝岳ジオパーク

五島列島（下五島エリア）ジオパーク


霧島ジオパーク

● 日本ジオパークネットワーク表彰

感謝状　　米田 徹 氏

米田徹氏は、2007 年 10 月の日本ジオパーク連絡協議会発起人会及び同年 12 月の日本ジオパーク連絡協議会設立時に協議会会長に就任され、また 2009 年 5 月の日本ジオパークネットワーク設立を経て理事長として、2022 年 5 月まで 15 年間にわたり日本ジオパークネットワークを主導された。また、糸魚川ジオパーク協議会会長として、糸魚川、島原半島及び洞爺湖有珠山の世界ジオパーク認定にも尽力されたほか、2010 年の第 1 回日本ジオパーク全国大会（糸魚川大会）を開催するなど、積極的に他のジオパーク地域を牽引されており、日本のジオパーク活動及び日本ジオパークネットワークの礎となる顕著な功績があることから、感謝状が授与された。

表彰状　　三笠ジオパーク推進協議会

三笠ジオパーク推進協議会は、教育旅行を中心としたジオツアーの整備、プロモーションを数年にわたって推進してきた結果が集客数の増加につながるなど着実な実績を残し、ジオパークによる経済効果の見える化を実現した。また、ジオパークグッズの売り上げを炭鉱遺産の保護保全のための調査継続費用に充て、ジオパークによる経済活動の成果が地域の遺産の保護保全に貢献し得ることを具体的に示した。これらの取り組みが、広く共有されるべきグッドプラクティスとして評価され、下村事務局長による取組紹介の後、表彰状が授与された。

表彰状　　土屋　晴樹 氏　※開会セレモニーでは紹介のみ

土屋晴樹氏は、西伊豆を拠点に児童生徒を対象とする「ジオ教育」普及、ジオガイドによる学校現場での教育プログラム整備等に尽力し、伊豆半島ジオパークの黎明期から 10 年の長きにわたり教育事業に極めて大きな貢献を果たした。伊豆半島ジオパーク推進協議会の教育部会委員として、2021 年度に制作された『学校現場でのジオガイド活動の手引き』を執筆、編集された。伊豆半島ジオパークにおける教育活動を全国のジオパークの範となりうる水準に高めた貢献が認められ、今回の受賞となった。

基調講演

「恐竜化石から過去、現在と未来の地球を考える」

講師：真鍋　真 氏　（国立科学博物館副館長 標本資料センターコレクションディレクター）

恐竜や古生物にまつわる絵本を紹介しながら、地球の「記録」である化石を読み解くことの大切さ、面白さを伝え、過去と現在と未来を繋ぐヒントが化石研究にあることを解説いただいた。

パネルディスカッション①

「地球と旅する～白山手取川の地から地球と人の未来を考える～」

コーディネーター：青木　賢人 氏　（金沢大学）
パネリスト：真鍋　　真 氏　（国立科学博物館副館長 標本資料センターコレクションディレクター）
坐間　妙子 氏　（気象予報士）
谷口　　京 氏　（写真家）
宮原　育子 氏　（宮城学院女子大学）
ママードゥア・アイーダ 氏　（金沢大学）

化石や気象、防災、芸術、観光、教育などそれぞれの専門家が集結し、大会テーマの「地球と旅する」をイメージしながら「地球」や「白山手取川ジオパーク」への思いを様々な視点から語り合った。そして、未来の地球に思いを寄せ、今の私たちができることについて議論を深めた。

パネルディスカッション②

「さいころ de ジオトーク！～身近なネタから白山手取川ジオパークを語ろう～」

コーディネーター：新名　阿津子 氏（高知大学 日本ジオパーク委員会委員）
パネリスト：若岡　　真紀 氏（伝統工芸ディレクター）
ぶんぶんボウル（吉本興業 よしもと石川県住みます芸人）
森下　　知晃 氏（金沢大学）
原　　章子 氏（恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク）
山口　　隆 氏（白山手取川ジオパーク 公認観光ガイド）

大きなサイコロを転がし、出た目のテーマに合わせたジオパークトークを繰り広げた。地質や地形、歴史、伝統文化など白山手取川ジオパークの多様な側面を、パネリストらがアットホームな掛け合いで紹介した。

分科会①～⑥

分科会一覧

	タイトル	場所
分科会①	ジオパークだからこそできるDX化	福祉ふれあいセンター 2 階研修室
分科会②	ジオパークは SDGs の教育としてどんな地域学習教材を提供できるのか？	松任文化会館ピーノ 4 階研修室
分科会③	新しい「旅」のスタイルを考えよう	松任公民館 1 階体育室
分科会④	地質標本販売を考える	松任公民館 2 階研修室
分科会⑤	「やさしい日本語」でジオパークを表現しよう	松任文化会館ピーノ 3 階研修室
分科会⑥	自然災害伝承碑とジオパーク	松任学習センタープララ ライブシアター

※詳細は 16 ～ 21 ページを参照。

市町村長等セッション

※詳細は 22 ページを参照。

ユースセッション

※詳細は 23 ページを参照。

公益財団法人イオン環境財団との包括連携協定発表

JGN から古川理事長、山田副理事長、イオン環境財団から山本専務理事、イオンリテール株式会社北陸信越カンパニー、室井支社長が出席し、全国大会開催日にあわせて、イオン環境財団と JGN が、それぞれの有する人的・物的資源を有効活用することで、気候変動をはじめとする地球規模の課題、生態系の課題、地域の生活・文化に影響を与えている地域社会の課題解消に向けて、持続可能な社会の実現に貢献することを目的として、包括連携協定を締結した。

交流会

ぎりぎりまで開催方法を検討した交流会は、新型コロナウィルス感染症への感染対策のため、会場をグランドホテル白山とレッツホールつるぎの２会場に分けて開催した。グランドホテル白山で行われたオープニングやアトラクションの様子は Zoom を使ったライブ配信を行い、両会場が同時進行となるような工夫をした。会場内では、座席を指定し、個別のお弁当を配布するなど感染対策をしながら、全国から集まった参加者と３年ぶりに対面での交流を楽しんだ。

いいとこ白山フェア

● ゆきママ☆マーケット

白山市の特産品や、地域に伝わる食材を使ったお土産などを集め、23 団体が地産地消を意識した「ジオパークの恵み」を販売した。会場では、たくさんの来場者がとち餅や堅豆腐、ふぐの子パスタ、ジビエを使った料理などを楽しむ姿が見られた。

出店一覧

CANADIAN CAFÉ	菓子処　大松庵
白山とうふ工房 山下ミツ商店	トラットリア　ORSO
つるぎ蛸佐ん	白峰観光協会
一里野高原ホテル　ろあん	メンツル製麺所
ラ・フェスタ	白山酒造組合・白山野々市小売酒販組合
パン工房 clover・横江荘荘園まつり実行委員会	大西蒲鉾
GUESTHOUSE CAFÉ&BAR UNILA	越原甘清堂
やましょく	白山かさね織り　おりじん
JA 松任青年部	ともんちファーム
美川商工会青年部	白山観光物産センター　道の駅　瀬女
行善寺やぶそば	GEONOTES
美川 37Café	

● 交流広場「ジオネット」

全国のジオパーク特産品を販売する『ジオネット』ブースでは、各地域の特色ある商品が店頭に並び、来場者はそれぞれの商品とジオパークを PR したポップを見ながら買い物を楽しんだ。

また、白山手取川ジオパークのブースでは、オリジナルグッズと共に白山市産スギ材を使用した大会記念箸などを販売した。

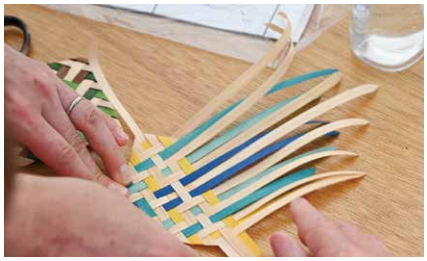
ほかにも、他のジオパーク地域や大会協賛企業などによる展示や体験ブースなど合わせて19団体が出展した。

出展一覧

白山手取川ジオパーク	白山市伝統産業振興協会
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会	白山市観光連盟
南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会	Connect HAKUSAN （白山手取川ジオパーク推進協議会×株式会社吉田酒造店）
伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク	白山ユネスコエコパーク
北海道地図株式会社	環境省 白山自然保護官事務所
公益財団法人イオン環境財団・イオンモール白山	NPO 法人 環白山保護利用管理協会
「金沢工業大学 ×LODU 白山市における SDGs 活動」	国立研究開発法人 防災科学技術研究所
ジオパークの恵みをまちづくりへ ～新潟県立海洋高等学校のチャレンジ～	（一社）石川県地質調査業協会
大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」登場！ 阿野全成と浮島ジオ学研究会	出張！白山砂防科学館
全国ジオパーク特産品販売「ジオネット」	

● 伝統工芸「匠」コーナー

白山市伝統産業振興会（太鼓、牛首紬、美川仏壇、鶴来打刃物、檜細工、加賀繍、加賀獅子頭の７産地の事業者で構成）の協力をいただき、白山手取川ジオパークのエリアに伝わる７つの伝統工芸品（太鼓、牛首紬、美川仏壇、鶴来打刃物、檜細工、加賀繍、加賀獅子頭）をメイン会場ピーノのロビーに展示した。また、屋外テントブースでは、伝統工芸品のお土産販売、牛首紬のつまみ細工と檜細工のコースター作り体験を行った。



同時開催
● マルシェ・ドゥ・ハクサン

JR 松任駅南広場では、白山市産の農林水産物やそれらを使った加工品を生産者が直接販売する『マルシェ・ドゥ・ハクサン』が開催された。会場では、白山市内の大学や専門学校に通う学生たちが開発した白山菊酒クッキーや地域食材を使った丼なども販売され、商品の購入を待つ人たちの長い列ができていた。

10月23日(日)

口頭発表

一般の部と小中高生の部に分け口頭発表を実施した。一般の部は、8つのテーマについて事例紹介等を行った。小中高生の部はジオパークに関する学習活動などが発表された。

※発表タイトル等詳細は24～25ページを参照。

● 一般の部

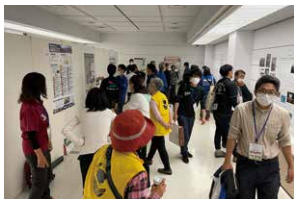
● 小中高生の部

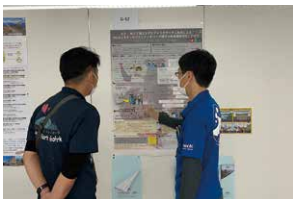
ポスター発表

一般の部と小中高生の部に分けポスター発表を実施した。コアタイムには多くの人が集まった。特に小中高生の部では保護者など地域の方も参加し、活発に発表者に質問などを行っていた。

※発表タイトル等詳細は26～27ページを参照。

● 一般の部





● 小中高生の部

閉会セレモニー

● 分科会、セッション報告

分科会①
野邉 一寛 氏（隠岐ジオパーク）

分科会②
山本 隆太 氏（静岡大学）

分科会③
白井 孝明 氏（萩ジオパーク）

分科会④
加賀谷 にれ 氏
（洞爺湖有珠山ジオパーク）

分科会⑤
丸橋 暁 氏（ジオゆに）

分科会⑥
宮原 育子 氏（宮城学院女子大学）

市町村長等セッション
菊池 直樹 氏（金沢大学）

ユースセッション
大野 希一 氏（鳥海山･飛島ジオパーク）

ユースセッション
吉川 愛梨沙 氏
（日本ユネスコ国内委員会次世代委員）

● 大会宣言

大会宣言文は、「地球と旅する」をテーマとして行われた基調講演・パネルディスカッション・分科会･セッションの議論をもとにして集約し、コーディネーターの皆さんとともに作成した。

※大会宣言の全文は35ページに掲載

実行委員会会長　山田 憲昭

● 次回開催地あいさつ

関東ブロックの皆様

● 閉会あいさつ

実行委員会副会長　米永 龍介

開会セレモニー、基調講演、パネルディスカッション①②、閉会セレモニー
司会：福島 彩乃　　手話通訳・要約筆記：石川県聴覚障害者センター

分科会 1　ジオパークだからこそできるDX化

参加人数	
現地参加	オンライン参加
39人	―

企画・運営

白山手取川ジオパーク、(一社) 隠岐ジオパーク推進機構
金沢工業大学、株式会社スマートホテルソリューションズ

概　要

これまで私たちは、専門家を中心に「ジオ」「エコ」「ひと」を連動して捉え、各領域を探求してきた。一方で ESG の側面から、経済界においても環境・社会にまつわる様々な事象は重要なリソースだとする捉え方が新常識になった。ジオパーク活動を通じて得られる様々な知見は、経済を牽引する企業や新しい社会を切り開く若者にとっても重要な資源であり、それら知見がデジタル化されていることで、メタバースや NFT といった新技術が台頭する社会のなかで新たな価値を創出することが可能となるのだ。本分科会では、グループトーク及びパネルディスカッションを通して、JGN における DX の在り方を議論し、ジオパークだからこそ実現できる経済・環境・社会の調和を提言する。

内　容

13:30 ～ 13:50	DX 分科会趣旨説明および DX 関連情報インプット① 金沢工業大学　産学連携局　福田氏
13:50 ～ 14:10	DX 関連情報インプット② 一般社団法人　サトヤマカイギ　代表　高志保氏
14:10 ～ 14:30	DX 関連情報インプット③ 一般社団法人 隠岐ジオパーク推進機構　野邉氏
14:30 ～ 17:00	ワークショップ：ジオパーク DX 思考体験プログラム ファシリテーター　金沢工業大学　産学連携局　福田氏 ・ジオパークが目指す未来のあるべき姿（個人ワーク） ・チームビルディング／グループワーク ・プレゼンテーション
17:00 ～ 17:10	ラップアップ

ま と め

分科会には申込の段階で定員をオーバーするほど盛況であり、当日の分科会には総勢 39 名が参加した。社会全体の中で、経済・環境・社会の調和が求められていることや、社会課題の解決には、様々な事象の組み合わせによってエコシステムを創出することが必要になっていること、さらには、デジタル技術が進歩し、AI、メタバースといった最新の技術に関する情報について知識を共有し、データドリブンによる未来のジオパークの在り方について参加者全体でアイディアを取りまとめることができた。日頃の活動の中にちょっとしたデジタルを活用することの重要性や、メタバースを活用することで、ジオパーク活動の本質をより多くの方々に伝えることが可能になるといった、様々なアイディアが創出された。参加者全体の満足度も高く、今回の分科会を単発で終わらせることなく、継続的に活動していくことの重要性を参加者全員で確認した上で、「DX ワーキンググループ設立」を目指し分科会を終了した。

分科会 2

ジオパークはSDGsの教育としてどんな地域学習教材を提供できるのか？

参加人数

現地参加	オンライン参加
52人	17人

企画・運営

JGN教育ワーキンググループ
白山手取川ジオパーク学習支援員

概　要

2017年・18年の学習指導要領の改訂以降、学校現場では、SDGsを意識した探究学習の進め方に課題を感じている先生は多い。そこで、白山手取川ジオパークで実施している「ジオ遠足」を題材に、SDGsを意識した地域学習教材のあり方を検討する。また、各地の教育活動についても情報交換を行う。

内　容

1. イントロ　山本隆太（静岡大学）・・・ジオパークのSDGsを意識した地域学習教材について、既存の「ジオ学習」からそのヒントを探したいという趣旨説明
2. 事例発表1　古河尚訓（白山手取川GP）「白山手取川ジオパーク学習支援員これまでの活動」・・・10年間の取り組みを発表
3. 事例発表2　脇坂弘明（白山手取川GP）「SDGsの視点を取り入れたジオパーク学習教材化の模索」・・・現地見学後の学習のまとめをする「パズル」（写真）を提示
4. 論点整理　SDGs教育を考える枠組みとしてウェディングケーキモデルを提示
5. ディスカッション「ジオパークはSDGsの教育としてどんな地域学習教材を提供できるのか？」・・・グループで議論する教材を持参している場合、共有する。
6. ショートリフレクション･･･グループディスカッションで出た意見として「SDGsの取り組みはすでに学校から要請があり取り組み始めている」等といった点を取り上げて共有した。また、宣言文の方向性を分科会メンバーで確認した。
7. アンケート・・・テーマに関する最終的な参加者の考えをアンケートで回収した

ま と め

アンケートの結果、SDGs教材を「作れる」と回答した方は14名（35.9%）、「できそうだ」と答えた方は23名（59%）であり、合わせて94.9%の参加者がSDGsの地域教材作成について可能と回答した。

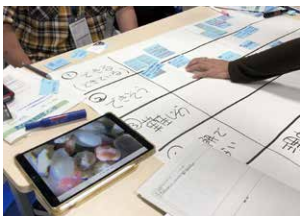
そのあり方については、学習支援員の脇坂さんが開発した「パズル」が参考になったという声が多かった。その他、これまでのジオパーク学習の取り組みを継続的に発展させ、活かすという視点が共有された。そこで、上記の内容を宣言文として以下のようにまとめた。

「これまで蓄積さえた副読本やガイドブックにSDGsのコンセプトを加え、パズルやカードなどの工夫で体験的な学びを展開できる」

その一方で課題も明らかになった。SDGsが一時的な流行に終わってしまうのではないかという危惧や、そもそもの持続可能な開発自体の理解が不足しているというコメントが多かった。そこで、課題については以下とした。

「そのためにも私たち自身がまず持続可能な開発の本質をより深く理解し、学校との連携を推進する」

今後、SDGsの地域教材化については、各ブロックでのイベントや教育ワーキンググループなどを中心にフォローしていく。



分科会 3

新しい「旅」のスタイルを考えよう

参加人数

現地参加	オンライン参加
44人	―

企画・運営　萩ジオパーク、白山手取川ジオパーク

概　要

変動帯に生きる私たちにとって、変化に柔軟に対応する力は欠かせない。コロナ禍で日常は一変し、観光業界においても新しい旅の形が模索されてきた。オンラインツアーを始めとする試行錯誤の経験を共有した上で、変化に応じて「新しい旅のスタイル」を生み出す思考をグループワークで実践し、社会におけるジオパークの役割を議論する。

内　容

14:00 ～ 14:20	概要説明・アイスブレイク
14:20 ～ 14:50	グループトーク①「コロナ禍の経験の共有」
14:50 ～ 15:10	萩ジオパークの事例紹介
15:10 ～ 15:20	休憩
15:20 ～ 16:00	グループトーク②「ジオパークの旅で何を伝えたい？」
16:00 ～ 16:10	休憩
16:10 ～ 16:50	グループワーク「新しい旅のスタイルを考えよう」
16:50 ～ 17:00	共有・まとめ

ま と め

参加者同士でコロナ禍の経験を共有した後、再び著しい変化に直面しても柔軟な発想で対処できるように、活動目的を再確認し、状況に応じた手段を導き出す思考演習を行った。

目的の確認として「来訪者に最も伝えたいこと」を議論する時間を設けたところ、７割近い参加者が「自分の地域の魅力」と回答した。地域の枠を超えて社会全体の発展に貢献する意識を高める必要性を再認識する機会にもなった。最後のグループワークでは「もしも人力で動くものしか使えなくなったら？」「もしも言葉が使えなかったら？」という２つのテーマの一方を選択して新しい旅の手法を話し合った。馬車や帆船を使ったジオツアーや、AI 技術の活用といった革新的な案が多数見られた。架空の設定だが、これらのアイデアは脱炭素社会に向けた取り組みやユニバーサルデザインの分野等でも役立つものであり、現在の活動にも取り入れて社会に貢献していく意識を共有して終了とした。

分科会 4　地質標本販売を考える～地質標本販売にはどんな問題があるの？～

参加人数
現地参加 46人　オンライン参加 7人

企画・運営　JGN地質標本の収集・販売を減らすための情報発信ワーキンググループ

概　要

ユネスコ世界ジオパークの基準では「ジオパークは地質標本などの持続可能ではない取引を積極的に防ぐべき」と定められているが、この「持続可能ではない取引」とは、何をさすのか？本分科会では、ジオパークとしてこの課題に取組む背景や、実際に国内や世界でどのような問題が起きているのかなどについて紹介する。また、各地域が直面している課題や、ジオパークとして取組めることなどについて、参加者間で意見交換を行う。

内　容

14:00 ～ 14:30	① 背景 ・この問題に取り組む理由　加賀谷にれ（洞爺湖有珠山） ・歴代ガイドラインの調査　貞包健良（佐渡）
14:30 ～ 15:40	② 世界で起こっていること ・持続的ではない採掘・採集　加藤聡美（アポイ岳）、肥沼隆弘（秩父） ・環境負荷問題　小林辰美（山陰海岸）、福村成哉（南紀熊野） ・労働問題（海外）　吉瀬毅（桜島錦江湾）
15:40 ～ 15:50	休憩
15:50 ～ 16:15	③ 地質標本販売問題に取り組むヒント ・JGN アンケート結果　松村愉文（白滝） ・責任ある標本調達　小河原孝彦（糸魚川）
16:15 ～ 16:20	休憩
16:20 ～ 17:00	④ グループワーク ・自分の地域で取組めること、そのためのキーワード

ま と め

世界ジオパークでこれまで運用されてきた歴代のガイドラインを見ると、表現の変遷はあるものの、最も初期（2004 年）から「地質遺産の保全」と併せて「鉱物や化石を販売しない」ことが記載され、これらが保全活動の基本とされていたことがわかる。

では、なぜ販売してはいけないのか？ 化石や鉱物の採掘や流通の過程で、
①非持続的な採掘問題（貴重な岩石、鉱物、化石の減失）
②労働問題（児童労働、作業員の健康被害や生命に関わる労働安全面の問題）
③環境問題（自然環境・生活環境への負荷、紛争・貧困など社会環境問題）
が発生しており、たとえ無自覚であっても販売（購入）するという行為が、このような状況を助長することにつながってしまうためである。

分科会では、世界で起きているこれらの深刻な状況を共有するとともに、各地域で関係者との対話を通して、持続可能な社会に向けた責任ある利用を考え実践することの意義を共有した。

分科会 5

「やさしい日本語」でジオパークを表現しよう

参加人数

現地参加	オンライン参加
39人	5人

企画・運営　JGNユニバーサルデザインワーキンググループ

概　要

白山市の取り組む「やさしい日本語」事業を事例として、どんな方でも「ジオパーク」を楽しめるためには何を考えればよいのか、どういった工夫をすると良いのか等を検討する。また現地の看板・パネルも見学し、表記されている文章だけではなく構造上のポイント等も検討する。

内　容

14:00～14:05	趣旨説明（UDWG　松原）
14:05～14:20	なぜジオパークでUDなのか（UDWG　丸橋）
14:20～14:40	コロナ収束を見据えて…「新たな旅スタイルの考察」～「白山市観光みらいプロジェクト」が取り組んでいくこと～（株式会社REプランニングワークス　橋屋氏）
14:40～15:00	白山市「やさしい日本語」取り組み紹介（白山市国際交流室　浦野氏、白山市国際交流協会　角田氏、日本語サポーター　木保氏）
15:00～15:10	国内外のジオサイト看板事例（松原）
15:15～16:00	現地の看板で「やさしさ」を考える
16:00～17:50	グループワーク、班ごとに「やさしい」ジオサイト看板をデザインする

ま と め

今回は、“看板やパンフレット、チラシ”など、文字やイラスト等による情報媒体やサイトでの表示方法などについてＵＤ目線で議論した。まず、分科会の趣旨とUDWGのこれまでの活動経過、海外のUD取り組み例、なぜジオパークでUDなのかを共有し、次に白山市からユニバーサルツーリズムの可能性と未来、外国人にもわかりやすい「やさしい日本語」の実践例を紹介いただいた。共有した情報をもとに参加者全員（オンライン参加者は中継で）で行った野外のジオサイトとその看板のＵＤの視点での検証では、より分かりやすい、あるいは安全で親切な看板やサイト整備はどのようなものかを議論した。グループワークでは、前半の情報共有や野外での議論を踏まえ、各班にそれぞれ看板を設置するジオサイトを想定してもらい、サイトのどこにどのような看板を立てるのか、看板そのもののデザインや文章、イラストを考えてもらった。分科会を通じて共有したことは、「すべての人が地球と旅する時代、すべての人に地球のことが伝わる必要がある。ジオパークでは、すべての人が地球を想い・理解できる工夫が必要。そこにはUD的“やさしさ”が大切であり、地球と相手を想い・対話することで、一方通行ではない地球の理解が促進される。それは人が今後も直面する可能性のあるリスクを回避する手段にもなりうる」ということである。

分科会 6

自然災害伝承碑とジオパーク

参加人数

現地参加	オンライン参加
51人	8人

企画・運営　JGN自然災害伝承碑ワーキンググループ

概　要

自然災害伝承碑について理解を深めるとともに、伝承碑の掘り起こしと登録手続きについて学ぶ。さらには、伝承碑の活用事例を共有し、参加者各自の地域に持ち帰ることで活動を全国のジオパーク地域に展開する。

内　容

14:30 ～ 14:35	趣旨説明 宮城学院女子大学　教授　宮原 育子（日本ジオパーク委員会･副委員長）
14:35 ～ 15:05	講演①「自然災害伝承碑を考える～秋田県・東北からの報告～」 合同会社あきた地域資源ネットワーク　代表　鐙 啓記（男鹿半島･大潟ジオパーク推進協議会　正会員）
15:05 ～ 15:45	講演②「自然災害伝承碑の取組と利活用」 国土地理院　応用地理部　環境地理情報企画官　廣瀬 勝
15:45 ～ 16:45	各ジオパークの事例紹介（15 分× 4） ①男鹿半島・大潟ジオパーク「災害の伝承を受け継ぎ、未来につなげる～自然災害伝承碑の活用事例～」 男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会　専門員　高尾 実可子 ②浅間山北麓ジオパーク「―伝え続けて 240 年―1783 年浅間山天明噴火の災害伝承から見えてくるもの」 浅間山ジオパーク推進協議会　事務局　古川　広樹 ③箱根ジオパーク「箱根ジオパークによる国土地理院 自然災害伝承碑の取組み及びその活用」 箱根ジオパーク推進協議会　事務局　小笹　直人 ④糸魚川ジオパーク「災害県・新潟の自然災害伝承碑　登録状況と申請準備の副産物」 糸魚川ジオパーク協議会　事務局　香取　拓馬
16:45 ～ 17:00	質疑応答、まとめ

ま と め

自然災害伝承碑（以下、伝承碑）の登録手続きや意義と活用について本質的な理解を深めるため、２つの講演をいただいた。続いて、伝承碑を活用して防災・減災の取り組みを先進的に進めている４つのジオパークから、全国的に活動の幅を広げるべく、活用事例の紹介をいただいた。

全体を通し、伝承碑はどの地域にも存在し、地域住民に過去の災害の記憶を伝えている「地球の記憶遺産」でもあることを共有した。また、自然災害は同じ場所で繰り返すため、伝承碑は防災・減災への重要な手がかりとなることや、伝承碑を精読することで、新しい事実の発見があり、ジオパークガイドの防災意識やガイドスキルの向上に寄与できることが示された。さらには、ジオパークを通して伝承碑の活用を進めることで、自治体内の部署を超えた防災・減災への連携構築の必要性についても共有した。

最後に伝承碑の取り組みは、国土交通省をあげての「総力戦で挑む防災・減災プロジェクト」にも位置付けられており、国土地理院が進める伝承碑のデジタルアーカイブ化と地理院地図の活用はジオパークも協力して進めることが重要であることを共有した。

若者からの問い～世代を超えてジオパークの「今」と「未来」の話をしょう～

参加人数 46人

企画・運営　白山手取川ジオパーク

概　要

ジオパークに取り組む地域の運営団体代表を担う市町村長等が、「未来」の人材であるユース世代の興味や関心、地域の将来に対する考えなどを知ることにより、よりよい地域運営のためのきっかけとなる場を提供する。

内　容

14:00～14:10	挨拶
14:10～14:20	主旨説明（菊地直樹・金沢大学教授）
14:20～14:35	若者たちの自己紹介
14:35～15:15	若者たちジオパーク活動の紹介と意見交換
15:15～15:30	休憩
15:30～16:25	市町村長等からの「問い」にもとづく若者たちとの対話
16:25～16:30	まとめ（菊地直樹）

ま と め

全国のジオパーク地域の市町村長等たちと、ジオパーク活動に取り組む若者たち（高校生、大学生、大学院生）の対話を試みた。

第一部は、若者たち同士によるジオパーク対話である。各自が報告した活動に対して、疑問に思うこと、自分の活動に活かしたいことなど、次々と質問や意見が出てくる様子は、未来への可能性を大いに感じさせるものであった。

第二部は、若者たちの対話を聞いていた市町村長たちが、「効果的な防災教育を進めるには何が必要か？」「人口減少が進む地域の課題を解決しようとしているのか？」「世代を超えた交流をどうするべきか？」といった質問を投げかけ、異世代の対話を進めた。「ジオパークという答えのないことに取り組むことの楽しさ」や「ジオパークを通して世界とつながることができる」といった若者たちのジオパーク活動の楽しさが語られ、セッションは終了した。

若者たちとの対話を通して、市町村長等はジオパークの未来を創る次世代の可能性を共有した。

ユース世代で考える地域と地球の未来

参加人数
38人

企画・運営

鳥海山・飛島ジオパーク、室戸ユネスコ世界ジオパーク
白山手取川ジオパーク、隠岐ユネスコ世界ジオパーク
糸魚川ユネスコ世界ジオパーク

概　要

国内のジオパーク地域で地域課題の解決に向けて活動を行っている中学生や高校生、大学生（以降、ユース）同士が、対話を通じて地域や地球の未来を考える場とする。地域資源の持続可能な活用の在り方についての議論を通じて、各地域のユース間の連携を強化し、それぞれの活動の質を向上させることを狙う。

内　容

10:00	会場を出発。バスで白山比咩神社に移動
10:30～14:20	白山比咩神社に到着。鶴来地域の見どころを訪ねながら鶴来高校まで徒歩で移動
14:20	鶴来高校に到着
14:30～16:40	鶴来高校で参加者によるワークショップ
16:40	ユースセッション終了　※終了後宿泊先にて交流
23日　9:20	宿泊先を出発して大会メイン会場へ移動

ま と め

本分科会では、鶴来地域でまちあるきとワークショップを行い、地域資源の保護とその持続可能な活用について意見交換を行った。

まちあるきでは、５つの班に分かれ、地元のスーパーに立ち寄ったり飲食店で地域の名物を食べたりしながら、鶴来の地域資源を体感した。

鶴来高校でのワークショップでは、コーディネーターによる鶴来の地域資源の解説の後、それらの保護と持続可能な活用について話し合った。保護については「鶴来に住む人を増やす」や「まずは地域の人が地域を知る事が重要」という意見が出た。また持続可能な活用については、SNS による情報発信やスタンプラリーの実施が提案されたほか、「他地域の人ともっと交流し、視野を広げることが重要」という意見が出た。今後も参加者間で交流を続けて欲しいと伝え、分科会は終了した。なお、本分科会には日本ユネスコ国内委員会の次世代委員４名にも参加いただき、会のスムーズな進行にご協力いただいた。

一般の部

《第 1 会場　松任文化会館ピーノ 2 階 201、202 研修室》

発表時間	発表者名	ジオパーク・地域名	発表テーマ	タイトル
8:45～ 9:00	加賀谷 にれ ほか	洞爺湖有珠山	⑧その他	洞爺湖有珠山ジオパークのアイヌ語地名の絵本の制作、配布と関連イベント
9:00～ 9:15	加賀谷 にれ ほか	洞爺湖有珠山	⑧その他	洞爺湖有珠山ジオパーク全域の 周遊促進のための情報基盤再整備
9:15～ 9:30	山口 弘幸	鎮西学院大学	⑧その他	ジオパークにおけるユニバーサルデザイン化の推進展開の検討
9:30～ 9:45	臼井 里佳	伊豆大島	⑧その他	ジオガイドのさらなる充実をめざして！その 2
9:45～10:00	山東 弘幸	南紀熊野	④マーケティング	～南紀熊野ジオパークを走る鉄道～ 「JR 西日本との連携」
10:00～10:15	渡邊 裕介	阿蘇	④マーケティング	ジオパークにおけるロケーションコーディネートの必要性

《第 2 会場　松任文化会館ピーノ 3 階 301～303 研修室》

発表時間	発表者名	ジオパーク・地域名	発表テーマ	タイトル
8:45～ 9:00	金田 玄一	筑波山地域	②学ぶ	市民団体がジオパーク ガイドブックを制作してインターネット公開
9:00～ 9:15	佐々木 聡史 ほか	名古屋大学宇宙地球環境研究所 、洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会	②学ぶ	園児に対する科学教育普及活動と課題点
9:15～ 9:30	福田 貴之	隠岐	②学ぶ	高校×地域 NPO 法人による地域版 SDGs カードゲーム作成の取り組み
9:30～ 9:45	長谷川 修一 ほか	讃岐	②学ぶ	讃岐ジオパーク構想を支援する香川大学の人材育成講座
9:45～10:00	坂本 貴啓	白山手取川	②学ぶ	中山間地域における 地方創生拠点としての大学サテライトの役割 －東京大学 北陸サテライトの研究・教育・社会活動－
10:00～10:15	野邉 みなも	隠岐	②学ぶ	サツマイモで語るわたしたちのこと
10:15～10:30	松原 誠 ほか	防災科学技術研究所、糸魚川	⑤災害	ジオパークに展開中の「防災科研 地震だねっと！」や「防災科研 揺れてるねっと！」

《第 3 会場　松任文化会館ピーノ 3 階 304 研修室》

発表時間	発表者名	ジオパーク・地域名	発表テーマ	タイトル
8:45～ 9:00	香取 拓馬 ほか	糸魚川	①守る	国連海洋科学の 10 年に関する糸魚川ジオパークの取組（海の魅力体験プロジェクト）
9:00～ 9:15	森 輝隆	島原半島	①守る	植物を利用した土木技術
9:15～ 9:30	殿谷 梓 ほか	三好、（株）ジオラボ	①守る	三好ジオパーク構想エリアのサイト設定課題 ～ジオパークのサイト設定への一提言～
9:30～ 9:45	宮北 健一 ほか	下北	①守る	地域とともに郷土芸能を学ぶ ～下北郷土芸能公演を例に～
9:45～10:00	伊関 健太 ほか	立山黒部	①守る	民有地のジオサイトの保護と地域づくり

《第 4 会場　松任文化会館ピーノ 4 階 401 研修室》

発表時間	発表者名	ジオパーク・地域名	発表テーマ	タイトル
8:45～ 9:00	吉良 洋美 ほか	喜界島	③繋がり	喜界島の地形・地質遺産の保全にむけたジオストーリーの構築
9:00～ 9:15	小澤 恵理	南アルプス （中央構造線エリア）	③繋がり	ユネスコエコパークとの連携
9:15～ 9:30	吉瀬 毅 ほか	桜島・錦江湾、霧島、下北、五島列島（下五島エリア）、三島村・鬼界カルデラ、日本ジオパークネットワーク事務局	③繋がり	JGN 専門員オンラインランチタイムミーティングの取り組み紹介
9:30～ 9:45	山岡 勇太 ほか	秩父	③繋がり	博物館を核とした地域活性化事業におけるジオパークの活用事例
9:45～10:00	柿崎 喜宏 ほか	室戸、三好、四国西予、土佐清水、讃岐	③繋がり	室戸ユネスコ世界ジオパークにおける企画展開催の報告：複数のジオパーク・ジオパーク構想が協同する「ジオ多様性」普及活動
10:00～10:15	ウィルソン・ジョアナ	Mine 秋吉台	③繋がり	Mine 秋吉台ジオパークの国際的な取り組み

小中高生の部

《第 1 会場　松任学習センタープララ ホール》

発表時間	発表者名	学校名	タイトル
8:45～ 9:00	高橋 志道 ほか	新潟県立海洋高等学校	ジオパークの恵みをまちづくりへ ～ 新潟県立海洋高等学校のチャレンジ～
9:00～ 9:15	梶 つばき ほか	白山市立鳥越中学校	鳥越中学校ジオパーク学習の取組
9:15～ 9:30	川端 一徹 ほか	白山市立白嶺小学校	自然は最高の遊び場 ～自然はぼくたちの宝物
9:30～ 9:45	加藤 尊勝 ほか	白山市立白峰小学校	白峰でジオパークを楽しもう！
9:45～10:00	上野 深雪 ほか	白山市立鳥越小学校	ふるさと鳥越 自慢
10:00～10:15	北嶋 空河 ほか	白山市立白嶺中学校	２０年後のふるさとのために私たちができること ～ 住んでいる地域を活用してイベントで集客し活性化を図る
10:15～10:30	真野 優花 ほか	島根県立隠岐高等学校	島の高校生が伝える楽しく学ぶ教育旅行メニューの提案

《第 2 会場　松任学習センタープララ ライブシアター》

発表時間	発表者名	学校名	タイトル
9:00～ 9:15	勝野 葉 ほか	白山市立河内小学校	河内町 大好き
9:15～ 9:30	上野 玲莉彩 ほか	白山市立鳥越小学校	ジオパーク が育む 鳥越の食 ～水の秘密を追って～
9:30～ 9:45	菊地 香帆 ほか	白山市立白嶺小学校	すごいぞ白山市 山のゆたかさ～うけつがれてきたもの～
9:45～10:00	飛田 皐羽 ほか	白山市立白嶺中学校	２０年後のふるさとのために私たちができること ～高齢者が暮らしやすいまちづくり～
10:00～10:15	篠田 和樹 ほか	美祢市立伊佐中学校	SDGs の観点から、ふるさと伊佐の将来を考える
10:15～10:30	織田 千晴 ほか	白山市立白嶺中学校	白山手取川ジオパーク の元で働く人々を通して考えた私の夢や生き方

《第 3 会場　松任文化会館ピーノ 大ホール》

発表時間	発表者名	学校名	タイトル
8:45～ 9:00	星野 心寧 ほか	石川県立鶴来高等学校	白山手取川ジオパーク を未来へ～価値発信と持続可能性～
9:00～ 9:15	川村 聡汰 ほか	白山市立蝶屋小学校	美川と水のつながり大発見！！
9:15～ 9:30	阿部 美月 ほか	白山市立湊小学校	『下流のジオ～自然の宝石箱～』
9:30～ 9:45	荒木 陸 ほか	白山市立美川小学校	美川じまん「台車と北前船」
9:45～10:00	長田 睦樹 ほか	島根県立隠岐高等学校	住民同士の学び合いを生む地域カードゲームで目指す仲間づくり

ポスター発表　10月22日(土)～23日(日)

※ 23 日(日) 10：30 ～ 11：30 にコアタイムを設定

一般の部

《掲示会場　千代女の里俳句館》

[発表テーマ：守る]

パネル No	発表者名	ジオパーク地域名など	タイトル
G-01	石川 徹	霧島	霧島ジオパークにおけるサイト等の更新について：成果と課題
G-02	阿久沢 小夜里 ほか	とかち鹿追	とかち鹿追ジオパークにおける登山道とナキウサギ生息地の保全活動
G-03	向井 正幸	上川中部	神居古潭ストーンサークル遺跡保全事業

[発表テーマ：学ぶ]

G-04	山本 俊夫 ほか	阿蘇	夏目漱石と阿蘇ジオパーク
G-05	西 涼太	三好	三好ジオパーク構想のジオパーク学習に関する取組み ～継続した地域学習に向けて～
G-06	中山 瀬那 ほか	島根半島・宍道湖中海	SDGs 意識の醸成に向けた島根大学ジオパーク学プログラムと学生組織（SDGs：島根大学ジオパークサポーター）の構築
G-07	菊池 恵理	栗駒山麓	子ども地球探検隊～ 3 つの地球の恵みでつなぐ風土と食べ物～（実践報告）
G-08	堀内 悠 ほか	おおいた姫島	ジオパークネットワークを活用した中学生のオンライン学習
G-09	鶴田 聖子 ほか	讃岐ジオパーク構想推進準備委員会	讃岐ジオパーク構想の実現に向けてのジオガイドの養成と育成
G-10	小西 智香子	南紀熊野	串本町の取組事例～職員講座・小学生とのジオサイト保全活動～
G-11	大谷 理紗 ほか	山陰海岸	玄武洞の魅力と地質学的価値
G-12	高場 智博 ほか	五島列島（下五島エリア）	五島列島（下五島エリア）ジオパークにおける教育実践と変遷
G-13	後藤 健一	室戸・国立室戸青少年自然の家	大地誕生の最前線で自然の恵みを学ぶ ～ジオパークを探求するプログラム開発～
G-14	楢崎 知行	Mine 秋吉台	私たちの作る小冊子…その狙いと内容
G-15	山本 隆太 ほか	JGN 運営会議教育ワーキンググループ	教育ワーキンググループの課題と取り組み
G-16	中村 有吾	十勝岳	十勝岳ジオパークの教育事業
G-17	松村 愉文	白滝	国際黒曜石会議（IOC Engaru 2023）について
G-18	大江 晃司	南紀熊野	地域にまつわる民話 絵本 の教材 作成「南紀熊野の民話 橋杭岩の立岩伝説 鯛島と河内島」
G-19	関谷 友彦 ほか	下仁田	下仁田まるごとジオパーク
G-20	阿部 晋之介	十勝岳	「大雪の森ジオマップ」の作成と活用
G-21	芝崎 浩子	南紀熊野	地元小学生が作った面白楽しいジオサイトパンフ＆カード ～南紀熊野ジオパークにおける古座川町立高池小学校との活動例～
G-22	金森 晶作 ほか	とかち鹿追	とかち鹿追ジオパークにおける気候変動に対してのモニタリング
G-23	古河 尚訓 ほか	白山手取川	白山手取川ジオパーク学習支援員の活動
G-24	遠山 昂	阿蘇	体験活動をとおしたジオパーク学習の展望について

[発表テーマ：繋がり]

G-25	辻 修次 ほか	伊豆半島	ツナグデンシャ―伊豆半島における SDGsの可視化と協働創出の装置としての移動式ギャラリーについて
G-26	濵田 真実 ほか	島根半島・宍道湖中海	海の魅力×山の魅力～島根半島・宍道湖中海ジオパークにおける片江地域の取り組み
G-27	堅田 智也 ほか	立山黒部	立山黒部ジオパーク協会×富山県自然保護協会　合同写真展
G-28	山西 敏広 ほか	三好	地域団体と連携した新たなジオツアーの造成
G-29	宮前 拓朗 ほか	秩父	フィンランドのジオパークとの協働・交流事業
G-30	飯田 義彦	筑波大学	白山手取川ジオパークと白山ユネスコエコパークの連携による大学院教育の実践
G-31	加藤 聡美 ほか	アポイ岳	環境整備を通した地域内活動の繋がり

[発表テーマ：マーケティング]

G-32	中谷 麻美 ほか	洞爺湖有珠山	旅行形態の変化に合わせた周遊イベント「スマホ de スタンプラリー」の実施
G-33	伊東 聰 ほか	伊豆半島	大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」阿野全成　ジオサイト・フィールド研究による「物語」の発見と地域連携・振興
G-34	坂本 貴啓 ほか	白山手取川	ダムカレーで試行する水源地振興－白峰地域での手取川ダムカレーの開発－

[発表テーマ：災害]

G-35	町 澄秋	恐竜渓谷ふくい勝山	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークにおける 2022 年 8 月 4 日豪雨の爪痕
G-36	吉田 圭志 ほか	喜界島	見慣れた風景から想定される災害を伝える取組
G-37	仲野 浩平	苗場山麓	苗場山麓における過去の災害遺構について
G-38	松原 誠 ほか	防災科学技術研究所、日本地震学会	防災科学技術研究所、日本地震学会のジオパークへの取り組み
G-40	田中 誠也	下北	ジオパークにおける「エムリバージオモデル」の活用 －下北ジオパークと栗駒山麓ジオパークにおける活用事例－

G-41	本多 力斗	浅間山北麓	考古学からみた、天明 3（1784）年の浅間山噴火における鎌原村と吾妻川流域の被害について
G-42	酒井 満 ほか	土佐清水	土佐清水ジオパークにおける災害伝承を活用した防災学習の実践事例
G-43	國枝 孝行 ほか	十勝岳	泥流今昔物語～先人たちの勇気とたゆまぬ努力の軌跡をたどり現在へ～

［発表テーマ：動物・植物］

G-44	篠原 五良	讃岐ジオパーク構想推進準備委員会	人・ジオ・アサギマダラが地域を紡ぐ
G-45	伊藤 幸子 ほか	南紀熊野	本州最南端・潮岬草地の植物

［発表テーマ：お酒］

G-46	郡山 鈴夏	糸魚川	糸魚川五蔵 ～酒どころ新潟のなかでも 5 つの酒蔵を持つジオパーク～

［発表テーマ：その他］

G-47	荒井 康輔 ほか	三笠	三笠ジオパーク DX 化の取り組み
G-48	仲江 孝丸	南紀熊野	歌でジオパークを繋ぐ
G-49	沖田 広希 ほか	日本国内の全ジオパーク、特にユネスコ世界ジオパーク	ユース世代のユネスコ世界ジオパークへの参画促進に向けて
G-50	宮前 拓朗 ほか	秩父	「秩父ふしぎ発見 !!」番組公開＆公式ガイドブック発売よもやま話
G-51	井川 愛理 ほか	筑波大学大学院	全国のジオパークにおける拠点施設の現状把握のための試行的分析
G-52	長船 裕紀	鳥海山・飛島	炎上転じて福となす !? アメリカザリガニ放流による SNS 炎上をきっかけとしたジオパーク理念の地域理解深化にむけて
G-53	臼井 里佳	伊豆大島	ジオガイドのさらなる充実をめざして！その 2

小中高生の部

《掲示会場　市民工房うるわし》

パネル No	発表者名	学校名	タイトル
S-01	永井 沙弥 ほか	白山市立白峰小学校	白峰にくらす人々が大切にしている文化
S-02	R3 年度 4 年生児童	金沢市立杜の里小学校	見て感じた水の旅～白山手取川ジオパーク～
S-03	塚本 星凪 ほか	佐渡市立両津小学校	両津っ子の加茂湖物語
S-04	田村 友花	佐渡市立小木小学校	小木半島は海底火山の贈り物
S-05	髙野 樹里 ほか	佐渡市立真野小学校	佐渡真野小学校の魅力発見学習 ～お地蔵さんの石と貝殻標本～
S-06	阿部羅 心々奈	白山市立美川中学校	手取川の洪水
S-07	荒屋 知咲登	白山市立美川中学校	おかえり祭りの秘密
S-08	高橋 亮成	白山市立美川中学校	美川仏壇の秘密
S-09	太田 和真	白山市立美川中学校	美川で捕れる魚
S-10	北川 皐	白山市立美川中学校	美川浮流水群のわき水
S-11	第 1 学年①	白山市立鳥越中学校	見つめて守ろう かけがえのない地域環境①
S-12	第 1 学年②	白山市立鳥越中学校	見つめて守ろう かけがえのない地域環境②
S-13	第 2 学年①	白山市立鳥越中学校	大地の営みと暮らし①
S-14	第 2 学年②	白山市立鳥越中学校	大地の営みと暮らし②
S-15	第 2 学年③	白山市立鳥越中学校	大地の営みと暮らし③
S-16	第 2 学年④	白山市立鳥越中学校	大地の営みと暮らし④
S-17	第 3 学年①	白山市立鳥越中学校	私たちのふるさと創造計画①
S-18	第 3 学年②	白山市立鳥越中学校	私たちのふるさと創造計画②
S-19	岡 晃太朗 ほか	様似町立様似中学校	様似町を観光スポットに！？
S-20	蒲田 彩華	石川県立松任高等学校	なぜ石川県の降水量は多いのか？
S-21	喜多 洋介	石川県立松任高等学校	白山市ではどんな化石が取れるのか？
S-22	可部谷 妃生	石川県立松任高等学校	気になる建造物
S-23	小林 柊介 ほか	石川県立松任高等学校	なぜ石川県の絶滅危惧種は他県に比べて数が多いのか？
S-24	紺谷 來舞 ほか	石川県立松任高等学校	白山市の有名な食べ物は？
S-25	慈道 寧々	石川県立松任高等学校	なぜ石川県の魚介類は美味しいのか？
S-26	武田 拓大 ほか	石川県立松任高等学校	石川県の特徴は何？
S-27	中田 祥太郎 ほか	石川県立松任高等学校	地球、はりんこ、外来種
S-28	中村 彪雅	石川県立松任高等学校	森本・富樫断層はいつ活動するのか？
S-29	東 みらい	石川県立松任高等学校	白山の魅力を伝えるには？
S-30	山下 陽菜乃 ほか	石川県立松任高等学校	手取川について
S-31	大津 穂乃花 ほか	青森県立大湊高等学校	景観を生かしたフォトウェディングの提案
S-32	林 明日香 ほか	新潟県立海洋高等学校	ジオパークの恵みをまちづくりへ～新潟県海洋高等学校のチャレンジ～
S-33	本山 藍華 ほか	新潟県立糸魚川白嶺高校	防災教育チャレンジプランを活用した糸魚川白嶺高校美術部の焼山紙芝居制作
S-34	緒方 厚太 ほか	京都府立丹後緑風高等学校 網野学舎	ジオ活！
S-35	田沼 想太 ほか	和歌山県立串本古座高等学校	民話を方言で伝える取り組み～絵本の読み聞かせの実践事例～
S-36	長田 睦樹	島根県立隠岐高等学校	住民同士の学び合いを生む地域カードゲームで目指す仲間づくり

1 地球と旅するジオツアー　ここが東西日本の境界線！ ～糸魚川 - 静岡構造線をブラリ旅～

参加人数 21人

ジオパーク名 糸魚川ユネスコ世界ジオパーク

ガイド名 磯貝謙二、水島美恵子

1日目 フォッサマグナミュージアム → フォッサマグナパーク → 根知山寺の砂岩泥岩互層 → 渡辺酒造 → フォッサマグナ糸魚川温泉（宿泊）

2日目 明星山展望台 → 小滝川ヒスイ峡 → 高浪の池 → 須沢海岸

内容 ＮＨＫのブラタモリで紹介された「糸魚川のすごいところ」をめぐるツアー。絶好の秋晴れのなか、日本列島を縦断する糸魚川 - 静岡構造線の断層露頭をはじめ、巨大なヒスイを観察できる小滝川ヒスイ峡、３億年前の石灰岩が隆起した明星山の岩壁、「メイドイン根知」にこだわる酒蔵など大地と人のかかわりを体感していただいた。参加者からは、「同じ思いを持った人たちと行動し、意見交換できて良かった」との声も聞かれた。

写真協力：吉野弘子様（ゆざわジオパーク）、永田ゆき子様（島原半島ユネスコ世界ジオパーク）

2 高低差 4,000m ロマン　富山の中の地球へ行こう

参加人数 27人

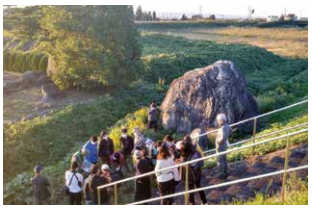
ジオパーク名 立山黒部ジオパーク

ガイド名 志村幸光、安江健一、稲葉泰一、佐伯克美

1日目 富山駅→悪城の壁（車内より）→称名滝→立山カルデラ砂防博物館→大場大転石→コンフォートホテル（宿泊）

2日目 富山駅→富山城址公園→松川→呉羽山礫層露頭→源ますのすしミュージアム（昼食）→越中八尾観光会館（おわらオンステージ鑑賞）、街並み散策→白山市

内容 天候に恵まれ紅葉が映えるなか、世界屈指の急流河川が造りだした落差 350 m日本一の称名滝、標高差 500 m断崖絶壁の悪城の壁、安政飛越地震による大転石などのジオサイトを巡った。また、翌日には神通川に関連した富山市街地や呉羽山などの成立ちを学び、午後からは鱒寿しやおわら風の盆などの文化を堪能した。



3 恐竜ほって、芋ほって、勝山深堀り満喫ツアー

参加人数 5人

ジオパーク名 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク

ガイド名 山岸登美子、田中修二

1日目 福井駅 → 勝山まちなか散策ツアー → 福彩り食堂のむら屋（昼食）→福井県立恐竜博物館内研究員による講義及び案内 → 福井県立恐竜博物館・どきどき恐竜発掘ランド → あまごの宿（宿泊）

2日目 あまごの宿 → 本多農園（里芋掘り体験・お土産）→ ゆめおーれ勝山 → ふるさと茶屋 縄文の里（昼食）→ 大矢谷白山神社 → 平泉寺白山神社 → 道の駅「恐竜渓谷かつやま」→ 松任文化会館ピーノ

内容 勝山の玄関口勝山駅から出発し、河岸段丘と共に形成された町並み散策、恐竜博物館での研究者の解説付き展示見学や、化石発掘、特産の里芋掘りを体験した。日本列島形成による大地の動きと、その恩恵をうけた勝山の大地を深掘りし、雪室で貯蔵された「雪室おろしそば」や山の恵みの猪、キジ鍋をはじめ、郷土料理をご提供。参加者からは化石発掘・里芋掘り体験が好評であった。

ポストジオツアー

10月23日(日)～24日(月)

1 ぐるっと白山麓！ 24時間で4県7市村を巡るよくばり旅 ～ジオパーク＆エコパークと白山信仰三馬場を訪ねて～

参加人数 24人

ジオパーク名 白山手取川ジオパーク

ガイド名 磯部雄三、河西益子、嶋崎英之

1日目 松任文化会館ピーノ → 白山比咩神社（加賀馬場）・昇殿参拝→勝山ニューホテル（宿泊）

2日目 勝山ニューホテル → 平泉寺白山神社（越前馬場）→ ＜大野、和泉通過＞ → 長滝白山神社（美濃馬場）→ 道の駅「白山文化の里長滝」（昼食）→ 白山文化博物館（自由入館）→ ＜車窓から庄川峡＞ → 世界遺産 白川郷（自由散策）→ 五箇山＜車窓から合掌造り集落＞ → 金沢駅 → 松任駅

内容 白山手取川ジオパークと白山ユネスコエコパークをぐるっと1周する特別ツアー！加賀馬場・越前馬場・美濃馬場をまわりながら、白山の自然と供にある人々の営みが白山信仰という形でみられることを体感した。実際に昇殿参拝を行い、専門ガイドや神主さんによる案内もあり、各ポイントで深く感じ入ることができ、また白山の水の恵みでもある鮎料理も堪能したツアーとなった。

2 ここは日本地質学発祥の地～化石と対話するジオ旅へ～「白峰」と「勝山」で恐竜時代にタイムトラベル！

参加人数 22人

ジオパーク名 白山手取川ジオパーク

ガイド名 舟津秀一郎

1日目 松任文化会館 ピーノ → 白峰河川公園 → 白山苑（宿泊）

2日目 白山苑 → 桑島化石壁 → 白山恐竜パーク白峰 → 菜さい → 花月楼（昼食）→ 福井県立恐竜博物館 → 福井駅 →小松駅 →松任駅

内容 日本地質学発祥の地である桑島化石壁を主軸に白山手取川と恐竜渓谷ふくい勝山の両ジオパークを結ぶ手取層群を巡る旅。太古のロマンを自然の中で真直に体感し、白山恐竜パーク白峰と福井県立恐竜博物館で化石発掘体験や産出した化石を目の前に専門家のお話を聞いて、過去の地球上に反映した恐竜をはじめとする様々な生き物たちに思いをはせた、まさにタイムトラベルツアーとなった。

3 ダム、砂防、構造物マニアならこのツアー！時に荒ぶる白山と手取川～百年続く「白山砂防」を探求～

参加人数 13人

ジオパーク名 白山手取川ジオパーク

ガイド名 仙名珠乃、山口隆

1日目 松任文化会館ピーノ → 不老橋 → 車窓から手取川ダム → 白山砂防科学館 → 望岳苑（宿泊）

2日目 望岳苑 → 百万貫の岩 → 別当出合 → 中飯場 → 市ノ瀬ビジターセンター → 菜さい（昼食）→ 手取川ダム管理センター→ 道の駅「瀬女」→ 瀬戸砂防堰堤 → 旧濁澄橋上 → 松任駅

内容 ダムと砂防を中心とした人の英知をたどるツアー。百万貫の岩に手取川の力強さを感じたのち、その手取川の水の旅と石の旅がもたらす災いと共存するための砂防工事現場を見学した。さらに災害と恵みが裏表であることを手取川ダム見学で感じ取った後、手取川流域で石の旅も止めない透過型砂防堰堤を遠望した。手取川流域の水の旅・石の旅そのものをまさに感じるツアーだった。

4 水との闘いと恵みを体感する旅 ～手取川が織り成す美景を堪能～

参加人数 21人

ジオパーク名 白山手取川ジオパーク

ガイド名 橋本登志雄、普照豊、吉田洋

1日目 松任文化会館 ピーノ → 綿ヶ滝 → 手取川 第3ダム → 旅館かのや（宿泊）

2日目 旅館かのや → 横町うらら館（笹寿司づくり体験）→ 旧加賀一の宮駅 → 七ヶ用水トンネル見学→獅子吼高原 → 御料理 喜太（昼食）→ 道の駅「めぐみ白山」→ 吉田酒造店 → 松任まち歩き → 松任駅

内容 白山と手取川から生み出される豊かな水と共に営みを続けてきた人々の暮らしを感じるツアー。豊富な水の旅と石の旅が作り出した手取峡谷や手取川扇状地などの大地を身近に感じた。さらに、水の恵みを得るための人々の工夫を見学し、多様な恵みを生かした豊かな食文化を堪能。手取川の恵みに関連してギュッとつめこんだツアーで、景色良し、体験して良し、飲んで良しのツアーだった。

5 世界でここだけ！フグの卵巣の糠漬けを食す地を探訪 ～北前船と伏流水の美川地区めぐり～

参加人数 13人

ジオパーク名 白山手取川ジオパーク

ガイド名 北要夫、二木武信、宮森八代江

1日目 松任文化会館ピーノ → 石川ルーツ交流館→手取川河口と海岸 → B&B MIKAWA V（宿泊）→ 美川 37Cafe（夕食 仕出）

2日目 B&B MIKAWA V → 呉竹文庫 → サケの遡上見学 → トミヨ増殖池 → お台場の水 → あら与加工場・本店 → 徳證寺 → 正寿寺 → 御料理こめや（昼食）→ 高浜お旅所 → 佐渡屋 → 美川 37cafe → 美川駅 → 松任駅

内容 手取川が日本海に流れ込む河口の美川地域をじっくり巡ったツアー。北前船以前から廻船の主要な寄港地として栄えた美川地域では、白山と手取川の恵みである手取川扇状地の伏流水が盛んに利用されていた。本来猛毒であるフグの卵巣を食べることができる加工食品「ふぐの子糠漬」を食し、伏流水で口を潤し、美川の文化を体感し、伏流水と日本海の恵みそして交易の拠点として発展した美川を味わい尽くすツアーとなった。

アンケート集計（抜粋）

第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会　アンケート

実施期間：事前アンケート　令和4年10月14日～21日
　　事後アンケート　令和4年11月21日～12月9日

回答数：事前アンケート　回答数308件　うち現地参加者281名、オンライン参加者27名
　　事後アンケート　回答数221件　うち現地参加者204名、オンライン参加者17名

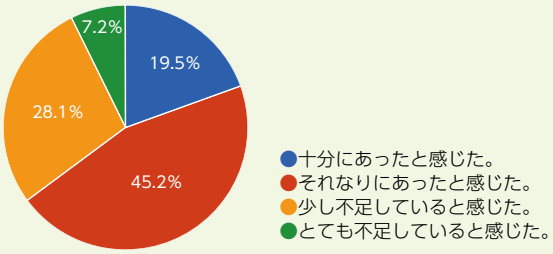
目　　的：大会参加者の意識の変化や参加後の満足度を図るほか、大会参加に関する基本事項を確認するため実施した。また、コロナ禍によりこれまでと変わった運営方法や、初の試みであるSDGsチャレンジについて意見や感想を聞き、今後の持続可能なジオパーク活動及び大会開催の参考とする。ここでは、アンケート集計の抜粋を掲載しているが、全体については大会HPに公開する。

① 基本事項

大会に必要な情報は「それなりにあった」が最も多かったが、「少し不足している」「とても不足している」との回答が全体の35.3%であった。情報は早めの発信やこまめに連絡することが求められていると思われる。楽しみにしているプログラム、楽しかったプログラムについては、オンライン、現地参加ともに基調講演への期待値が高かった。加えて現地参加は交流会への期待値も高かった。参加後はスペシャルトークショー、開会セレモニー、基調講演、パネルディスカッション、ポスター発表（一般）、交流会、いいとこ白山フェアなどが高くなった。大会全体を通して総合的に「良かった」「まあまあよかった」を合わせると94.5%の回答であり、ハイブリッド開催やSDGsチャレンジなど初となる試みはあったが、全体を通して満足度の高い内容になったのではないかと思われる。

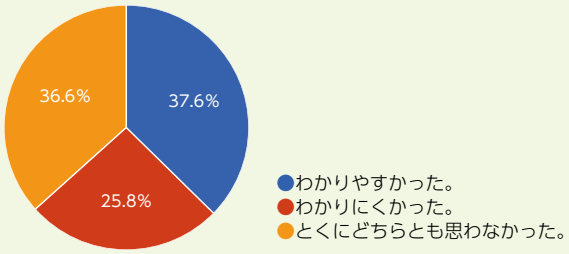
A 参加登録の前後を通して、大会参加に必要な情報等の連絡は十分にあったと感じましたか。

対　象：現地・オンライン参加者（事後アンケート）
回答数：221件



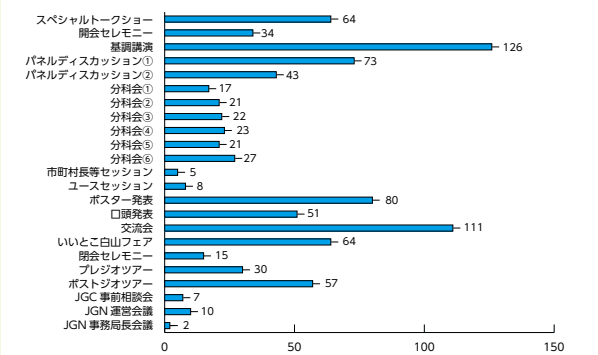
B 申込手続きの方法はどうでしたか。

対　象：現地・オンライン参加者（事後アンケート）
回答数：221件

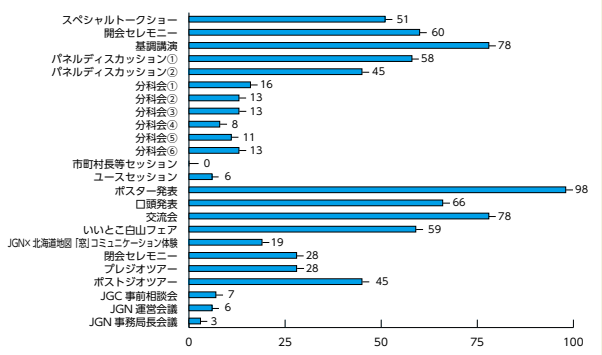


C 参加にあたって楽しみにしているプログラム、参加して楽しかったプログラムは何ですか。（複数選択可）

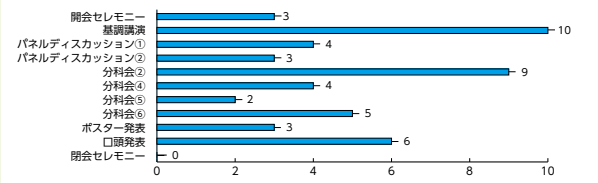
対　象：現地参加者（事前アンケート）
回答数：911件



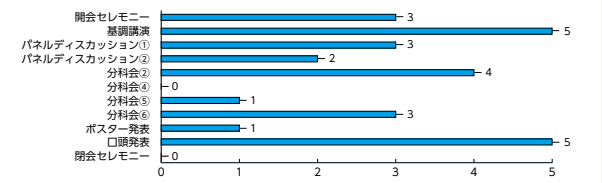
対　象：現地参加者（事後アンケート）
回答数：809件



対　象：オンライン参加者（事前アンケート）
回答数：49件

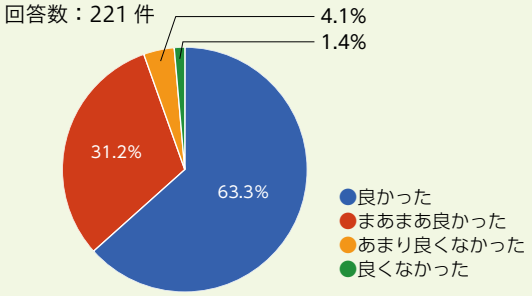


対　象：オンライン参加者（事後アンケート）
回答数：27件



D 白山手取川大会に参加して全体的にどうでしたか。

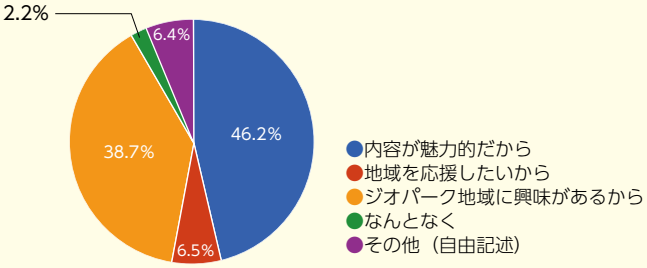
対　象：現地・オンライン参加者（事後アンケート）
回答数：221 件



② プレ・ポストジオツアーへの参加・不参加の理由について

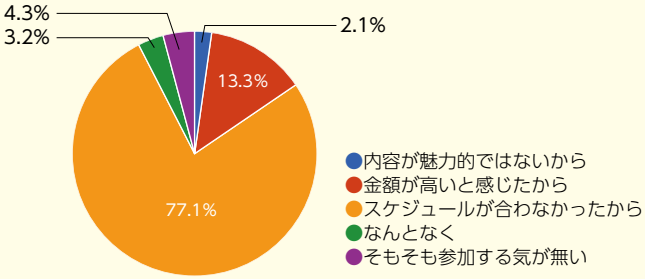
A プレ・ポストジオツアーに参加する場合、最も大きな理由を教えてください。

対　象：現地参加者（事前アンケート）
回答数：93 件



B プレ・ポストジオツアーに参加しない場合、最も大きな理由を教えてください。

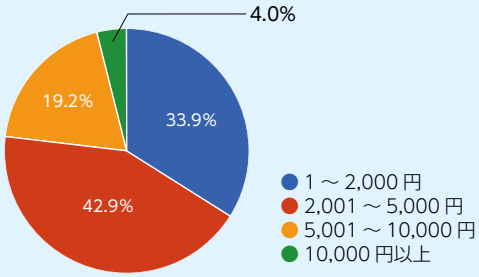
対　象：現地参加者（事前アンケート）
回答数：188 件



③ いいとこ白山フェアでの使用金額について

A いいとこ白山フェアを利用した場合は、フェアで使ったおおよその金額を選択してください。

対　象：現地参加者（事後アンケート）
回答数：177 件

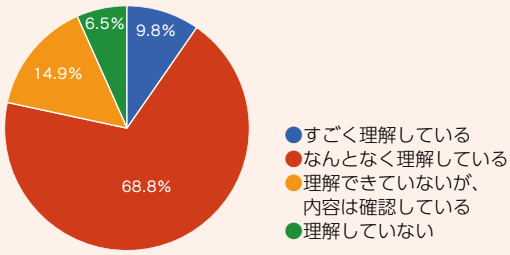


④ 大会テーマ「地球と旅する」について

大会の前後を通してテーマに対する意味と理解が増えた。

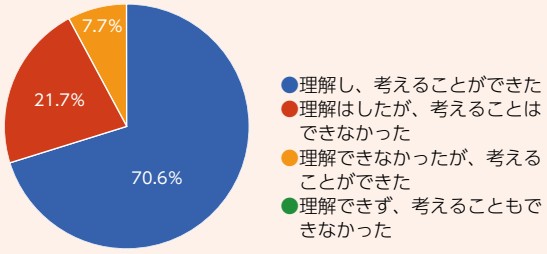
A 参加にあたって「地球と旅する」の意味を理解できますか。

対　象：現地・オンライン参加者（事前アンケート）
回答数：308 件



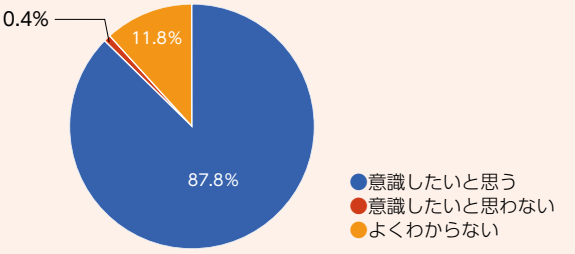
B 大会テーマ「地球と旅する」を理解し、地球環境や持続可能性について考えることが出来ましたか。

対　象：現地・オンライン参加者（事後アンケート）
回答数：221 件



C 今後、地球との旅を意識しようと思いますか。

対　象：現地・オンライン参加者（事後アンケート）
回答数：221 件



SDGs チャレンジの取り組み

SDGs 未来都市である白山市が大会会場となったことから、大会の実施により発生する環境負荷の軽減等の課題に焦点を当て、大会運営の改善を図ろうと考えた。そこで「SDGs チャレンジ」と題し、これまでとは別のアプローチで、SDGs の理念に沿った大会運営を目指した。白山手取川大会では、チャレンジ項目として下記を挙げ取り組んだ。

チャレンジ項目 ※（ ）内は SDGs の項目を大まかに環境、経済、社会に分けた時に、チャレンジすることで貢献できるものを指す。

- 大会 HP を JGN の HP 内に作成し、今後の大会でポータルサイトとして利用するための基盤を作った。（経済）
- 大会全体を通して、スタッフや出演者などのジェンダーバランスを意識した（社会）
- 現地とオンラインによりハイブリッド開催をした（環境、社会）
- ポスター・チラシの制作部数を減らし、デジタルサイネージや SNS を積極的に利用した。（環境、経済）
- 大会記念品を販売した（環境、経済）
- マイ箸・ボトル・バッグの持参を呼びかけた（環境）
- 出店者にできるだけノンプラ容器を使用するよう、協力をお願いした（環境）
- 分科会で使用するペンなどは、協議会・コーディネーターで持ち寄って再利用し、新規購入数を抑えた（環境）
- 観光パンフレットやチラシなどを全員に配布せず、受付横に置き各自が必要数を取れるようにした（環境）

大会記念品「マイ箸」の販売

大会記念品の販売はジオパーク全国大会初めての試みとなった。大会記念品を通して環境や地域経済に貢献するため「良い素材のものを長く使う」ことが大切であると考え、「地域産品」「自然素材」「長期使用が可能」なものを制作することとした。制作した記念品は白山市産の間伐材の杉を使ったお箸である。しかし過去の大会と比べると制作費がかかった。過去の大会では、制作費は平均で 50 ～ 60 万円であったが、それよりも倍以上となった。そこで実質コストを下げるため、また「長く使う」ことをより意識するためのきっかけとするため、記念品を販売することにチャレンジした。また、過去の大会では、記念品が平均で約 350 個程度余っていたことから、なるべく余りが出ないようにするため、購入の促進を図ることを目的に、参加登録者へお礼として 300 円の割引券を配布した。この取り組みの結果として、地域産品を使用することで運搬距離が短くなり、二酸化炭素の発生等による環境への負荷を減らすことに貢献出来た。販売数は 1,200 膳のうち 361 膳であった。余りは多くなったが、今後お土産として販売することでコストの回収を図る。

SDGs への意識

大会参加者に環境配慮の意識を持ってもらうことを目的に、HP や広報を通じて事前に「マイ箸・マイボトル・マイバッグ」の持参を呼びかけた。またいいとこ白山フェアでは、出店者へノンプラ容器の使用をしてもらうよう協力依頼をしたほか、ブースの一つではカードゲーム等を用いて SDGs の取り組み事例を紹介した。事前・事後アンケートにて SDGs への意識を図ったところ、事前アンケートでは 87.6% が意識しており、もともと高い数値であったが、事後アンケートでは「かなり意識している」と回答した人が 5%程度増えるなど、全体で 90% 以上が意識していることが分かった。

まとめ

人の活動が活発になる全国大会は、地域に良い経済効果をもたらすが、一方で大会準備方法によっては環境負荷がかかる場合がある。白山手取川大会でチャレンジした項目とその結果を参考として、今後の全国大会でも前例踏襲にとらわれず新しいやり方を積極的に取り入れることが期待される。

第 12 回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会
大会宣言

「地球と旅する」をテーマとする白山手取川大会は、水の旅と石の旅をキーワードとする白山手取川ジオパークにおいて、２日間にわたり開催された。コロナ禍の中、３年ぶりに開催された対面での大会となり、あらためて、ジオパークで活動する人たちが集まることによる交流と議論の熱気が大きくすばらしいものであることを感じることができた。

私たち人はこれまで多くの風景や新たな発見を求めて旅をし、その世界を広げてきた。風景を形づくり人の暮らしを支える地質や地形は、地球がこれまで長い時間続けてきた「旅」の軌跡として捉えることができる。人と地球はともに未来へ向けた旅をするパートナーであり、若者たちは地球の旅路にとって重要な次世代の同伴者なのである。

本大会では、人と旅のパートナーである地球の明るい未来のため、時空を超えて寄り添うイメージを持ちながら、地球環境、持続可能性などの課題に向き合い、感じ、学び、考えることができた。

ジオパークのネットワークを活かした活動を通して「地球との旅」の議論を深め、未来に向けて推進力をさらに高めるとともに、参加者それぞれが担う「持続可能な開発」の実現につなげるため、以下について宣言する。

【地質標本について】非持続的な鉱物採集、採掘に加え世界中で深刻な環境問題、労働問題が発生している。地域内外の関係者との学び合いや対話を通して課題を共有し、持続可能な社会に向けた責任のある利用の方法を考え実践する。

【教育について】これまで蓄積された副読本やガイドブックに SDGs のコンセプトを加え、パズルやカードなどの工夫で体験的な学びを展開できる。そのためにも私たち自身がまず持続可能な開発の本質をより深く理解し、学校との連携を推進する。

【自然災害伝承について】自然災害伝承碑は先人たちが子孫のために残した地球の記憶遺産である。ジオパークは、国土地理院のデジタルアーカイブへの登録と観光や学習への活用を進め、地域の人々とともに自然災害のリスク軽減に取り組む。

【新しい旅について】湿潤変動帯で生きる私たちは、今後も予期せぬ重大な環境変化に直面することを知っている。変化を続ける惑星の営みへの対応として、旅の常識が一変したコロナ禍の経験を糧とし、常に柔軟な姿勢で「新しい旅のスタイル」を生み出し、ツーリズムの世界をリードしていく。

【次世代との対話について】各地のジオパーク活動を支える 23 地域 26 人の市町村長等は、若者との対話を通して、ジオパークの未来を創る次世代の可能性を共有した。また、高校生を中心とする若者たちが、現地視察と対話を行い、ネットワークをつくった。今後は、世代内・世代間交流、地域間・国際交流などのネットワークを広げ、地域と地球の未来を担う人材を育成する。

【ユニバーサルデザイン（UD）について】ジオパークでは、すべての人が地球を想い、理解できるための「伝わる工夫」が必要である。そのために「UD 的やさしさ」を広げ、すべての人に対する安全安楽を共創する。

【デジタルトランスフォーメンション（DX）について】ジオパークだからこそできるＤＸによって、日本そして世界をつなげ、地球を守り楽しむ活動を展開する。

2022 年 10 月 23 日

第 12 回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会

実行委員会会長　**山田 憲昭**

各種広報

● 看板（会場周辺）

協賛看板

広告看板

歓迎看板

● デジタルサイネージ

イオンモール白山 観光情報コーナー横

イオンモール白山 通路

金沢駅構内で表示
（15 秒の動画）

● 横断幕

小松空港

松任文化会館ピーノ

● SNS 広告

Facebook、Instagram 等にて、9、10 月に配信

● 金沢コンベンションビューローのご協力による看板・のぼり旗（松任駅南口）

南口広場

エスカレーター横

改札前

ロータリー

大会関連イベント

● ゆきママたちを探せ！白山手取川ジオパークスマホスタンプラリー

全国大会のプレイベントとして、8 月 11 日から 10 月 30 日まで、白山手取川ジオパークの見どころを巡り、スマートフォンから二次元コードまたは GPS を読み込んでスタンプを獲得するスタンプラリーを実施した。

● Stories of the Hakusan Tedorigawa Geopark ～何気ない風景の中の物語～

白山市立博物館にて、10 月 7 日から 11 月 13 日まで、白山、手取峡谷、手取川扇状地など、白山手取川ジオパークの風景にある大地の物語を写真パネルや岩石標本展示で解説する企画展を行った。

● 白山手取川大会 PR ブース

JR 金沢駅にある観光情報センター内にて、10 月 8 日から 24 日まで、白山手取川ジオパークのブースを設置した。開催日間近となる 10 月 15、16 日には、ミニゲームなどのイベントを実施したほか、白山手取川ジオパークのイメージキャラクターであるゆきママとしずくちゃんも登場して、来場者にジオパークや全国大会の PR を行った。

実行委員会名簿（五十音順）

役職	職名	氏名
名誉会長	石川県　知事	馳　　浩
会　長	白山手取川ジオパーク推進協議会　会長	山田　憲昭
副会長	白山市公民館連合会　会長	米永　龍介
副会長	白山手取川漁業協同組合 代表理事組合長	横山　隆也
委　員	白山手取川ジオパーク友の会　会長	青木　賢人
〃	石川県観光戦略推進部　観光企画課主事	板谷　春菜
〃	佐渡ジオパーク推進協議会　事務局員	伊藤　智子
〃	石川県教育委員会生涯学習課　課長	岩木　智子
〃	金沢工業大学　学長	大澤　　敏
〃	南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会　専門員	小澤　恵理
〃	石川県教育委員会生涯学習課　主幹	笠松　雅美
〃	かが森林組合　代表理事組合長	片山　健二
〃	東三河ジオパーク構想推進準備会 事務局員	加藤　千茶子
〃	金城大学短期大学部　学長	加藤　　博
〃	石川県石川農林総合事務所　所長	川崎　智之
〃	美川商工会女性部　部長	北　　清美
〃	白山市防災士会　会長	北出　達也
〃	（一財）白山市地域振興公社　理事長	北村　　潔
〃	白山商工会女性部　部長	北村　祐子
〃	気象庁金沢地方気象台　台長	木津　暢彦
〃	国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所　所長	桑島　正樹
〃	白山市町会連合会　会長	小田　吉一
〃	白山市公民館連合会　主事	殊才　澄絵
〃	糸魚川ジオパーク協議会　事務局員	小林　猛生
〃	白山市防災士会　監事	五郎川　外美江
〃	林野庁近畿中国森林管理局石川森林管理署　署長	酒向　邦夫
〃	苗場山麓ジオパーク振興協議会 事務局員	佐藤　信之
〃	（一財）白山市地域振興公社 総務課係長	清川　直子
〃	（特非）環白山保護利用管理協会 理事長	曽我　隆行
〃	環境省中部地方環境事務所白山自然保護官事務所　自然保護官	染谷　祐太郎
〃	鶴来商工会女性部　部長	太磨　照美
〃	白山商工会議所　会頭	髙松　喜与志
〃	白山農業協同組合　代表理事組合長	竹内　文雄
〃	石川県観光戦略推進部　部長	竹内　政則
〃	白山市教育委員会　教育長	田村　敏和
〃	（一社）美しい伊豆創造センター 事務局員	塚本　春菜
〃	金城大学・金城大学短期大学部 総務企画部課長補佐	寺田　一美
〃	松任市農業協同組合　代表理事組合長	得田　恵裕
〃	国連大学サステイナビリティ 高等研究所いしかわ・かなざわ オペレーティング・ユニット プログラムアソシエイト	富田　揚子

役職	職名	氏名
委　員	石川県白山自然保護センター　所長	長井　　斉
〃	（一財）白山観光協会　専務理事	永井　隆一
〃	松任市農業協同組合　理事	中村　春江
〃	鶴来商工会　会長	長基　健司
〃	石川県立大学　学長	西澤　直子
〃	白山ユネスコエコパーク協議会 事務局員	西村　かおり
〃	（特非）白山しらみね自然学校 （白山手取川ジオパーク公認観光ガイド） 理事	西山　里香子
〃	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会　事務局員	原　　章子
〃	気象庁金沢地方気象台　技術専門官	東　　直矢
〃	白山市国際交流協会　会長	福田　　裕
〃	白山商工会議所女性会　会長	藤田　喜美子
〃	白山農業協同組合　総務課長	藤本　美穂
〃	（一社）白山市観光連盟　事務員	舟津　能子
〃	飛騨御嶽山溶岩流ジオパーク認定準備委員会　主任主査	細江　康弘
〃	飛騨山脈ジオパーク推進協議会 事務局員	松田　俊彦
〃	北鉄白山バス株式会社　取締役社長	松田　隆一
〃	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会　会長	水上　実喜夫
〃	（特非）環白山保護利用管理協会 副理事長	宮下　由美子
〃	（一社）白山市観光連盟　理事長	村山　圓八
〃	手取川七ヶ用水土地改良区　理事長	本屋　彌壽夫
〃	白山市小中学校長協議会　会長	森田　隆久
〃	（特非）白山しらみね自然学校 （白山手取川ジオパーク公認観光ガイド） 事務局長	山口　　隆
〃	（一社）立山黒部ジオパーク協会 専門員	山瀬　裕子
〃	白山市国際交流協会　協会職員	山村　てい
〃	白山商工会　会長	山本　外勝
〃	石川県石川土木総合事務所　所長	吉元　研司
〃	（一社）白山青年会議所 総務局事務局長	吉本　智美
〃	金城大学　学長	米島　　學
〃	（一財）白山観光協会　総務課長	米田　さやか
〃	金沢大学　学長	和田　隆志
〃	国連大学サステイナビリティ 高等研究所いしかわ・かなざわ オペレーティング・ユニット 所長	渡辺　綱男
監　事	美川商工会　会長	北村　達也
〃	（一社）白山青年会議所　理事長	作野　嘉昭

顧　問

顧　問	（特非）日本ジオパークネットワーク（JGN）理事長	古川　隆三郎
〃	日本ジオパーク委員会（JGC）　委員長	中田　節也
〃	白山市議会　議長	北嶋　章光

参加者数

● 大会参加登録者数／784 人

ブロック名	ジオパーク & 地名	現地参加者数	オンライン参加者数	正・準
北海道	アポイ岳	11	0	正
	洞爺湖有珠山	10	0	正
	白滝	4	0	正
	三笠	5	0	正
	とかち鹿追	5	1	正
	十勝岳	18	0	正
	上川中部	2	0	準
東北	磐梯山	9	0	正
	男鹿半島・大潟	9	0	正
	八峰白神	6	0	正
	ゆざわ	5	1	正
	三陸	12	2	正
	栗駒山麓	6	1	正
	下北	13	1	正
	鳥海山・飛島	24	0	正
	蔵王	8	0	準
関東	伊豆大島	7	1	正
	下仁田	7	0	正
	秩父	6	0	正
	箱根	8	1	正
	銚子	9	0	正
	筑波山地域	14	2	正
	浅間山北麓	8	1	正
	古関東深海盆	0	0	準
	那須烏山	1	0	準
中部	糸魚川	22	0	正
	伊豆半島	12	1	正
	南アルプス（中央構造線エリア）	8	1	正
	恐竜渓谷ふくい勝山	21	1	正

ブロック名	ジオパーク & 地名	現地参加者数	オンライン参加者数	正・準
中部	白山手取川	169	0	正
	佐渡	16	2	正
	立山黒部	12	1	正
	苗場山麓	10	0	正
	飛騨山脈	1	0	準
	東三河	2	3	準
	飛騨小坂	0	0	準
中四国近畿	山陰海岸	22	13	正
	室戸	12	0	正
	隠岐	10	0	正
	四国西予	10	0	正
	南紀熊野	24	5	正
	Mine 秋吉台	15	0	正
	島根半島・宍道湖中海	19	0	正
	萩	4	1	正
	土佐清水	8	3	正
	三好	11	3	準
九州	島原半島	12	0	正
	阿蘇	6	0	正
	霧島	5	2	正
	おおいた姫島	3	0	正
	おおいた豊後大野	7	1	正
	桜島・錦江湾	8	0	正
	三島村・鬼界カルデラ	3	0	正
	五島列島（下五島エリア）	11	0	正
	北九州	0	1	準
	喜界島	3	0	準
その他		59	3	
	合計	732	52	784

● 大会のべ参加者数／18,860 人

10/21	プレジオツアー（1 泊 2 日・3 コース）	53
10/21	白山市・クスリのアオキ文化創生プロジェクト 竹内海南江スペシャルトークショー	1,000
10/22	開会セレモニー	1,000
10/22	基調講演	700
10/22	パネルディスカッション①	700
10/22	パネルディスカッション②	200
10/22	分科会（6 会場）	308

10/22	市町村長等セッション	46
10/22	ユースセッション（～ 23 日）	38
10/22	交流会	425
10/22	ポスター発表　一般・小中高生の部（～ 23 日）	700
10/22	いいとこ白山フェア（～ 23 日）	12,727
10/23	口頭発表　一般・小中高生の部	470
10/23	閉会セレモニー	400
10/23	ポストジオツアー（1 泊 2 日・5 コース）	93
	合計	18,860

協賛企業・団体

クスリのアオキ

北海道地図株式会社

Geo.Labo 株式会社 ジオ・ラボ

総合建設コンサルタント
アルスコンサルタンツ株式会社
ARS Consultants Co.,Ltd.

白山市経済団体連絡協議会
白山商工会議所
美川商工会
鶴来商工会
白山商工会

未来に、愛を。
TOSMAC-i
GO TO SMART CLEAN INNOVATION

EVENTPRODUCE
Kuroco.
FESTIVAL/CONVENTION/EXHIBITION

muRata
金沢村田製作所

金城大学
金城大学短期大学部

造ることで、守っている。
YAMAZAKI GROUP
株式会社山崎組／山崎商事株式会社

EIZO

伊豆半島ジオパーク
IZU PENINSULA GEOPARK

立山黒部ジオパーク
38億年×4000m
TATEYAMA KUROBE GEOPARK

Itoigawa Geopark

佐渡ジオパーク

恐竜渓谷ふくい
勝山ジオパーク
DINOSAUR VALLEY FUKUI
KATSUYAMA GEOPARK

AEON MALL
イオンモール白山

AEON
イオン環境財団

インフラ整備を通じた未来創造
KYOWA 協和道路株式会社

㈱ムラシマ事務所

株式会社国土開発センター

KIT 金沢工業大学

株式会社日本海コンサルタント

IGS
ISHIKAWA GEOLOGICAL SURVEY ASSOCIATION
一般社団法人 石川県地質調査業協会

南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク

普場山麓ジオパーク

株式会社
ICCサービスセンター

株式会社
石川コンピュータ・センター

東三河ジオパーク構想推進準備会

UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNU-IAS
Institute for the Advanced Study of Sustainability

一般財団法人白山市観光連盟

手取川

飛騨山脈ジオパーク構想

株式会社町八家具／北鉄白山バス株式会社／株式会社あさがおテレビ／株式会社ケィ・シィ・エス／
株式会社日本旅行／北國観光株式会社／株式会社中部資源再開発／中部地下開発株式会社／北陸地盤工学研究会